

ニュウナイスズメ



澄川の森の道路沿いにかけた巣箱で苔を巣材に使っていない鳥について？でしたが、ニュウナイスズメだと思いにいたりしました。2007年5月6日の観察で、道路側の巣箱の一つに出入りしつつ、占有を主張しているような大きな鳴き声で雄が上方の枝をわたりつつ縄張りを主張していました。9日の作業日の観察では雌が巣材を啜って入りましたのでもう間違いありません。

ニュウナイスズメは、まず、鳥キチ以外の人はスズメとってしまうでしょう。ちょっと見にはスズメなのです。鳴き声にしてもよくよく聞き分けられる鳥キチにしてのみ区別できる違いなのです。よくよく観察する人はスズメよりも茶色の色合が明るいとか、頬が黒くないとか雌雄の色違いとかを事前に知識を持っていて、識別できるわけでありませぬ。嬉しいことにこの鳥はキツツキの使用済みの巣とか小さい樹洞とかに営巣するので巣箱を使ってくれるのです。営巣する場所にしても森の奥深くよりも里山を好むようなのです。北海道では夏鳥です。札幌近郊の森ではよく見られます。越冬の記録もあるようですが、私は冬に出会ったことはありません。分布は結構広く、”ヒマラヤから中国・台湾、南はミャンマーからベトナム北部、北はサハリン”と「世界鳥名事典」に記載されています。日中、日露での渡り鳥協定指定種なのであります。

5月9日、札幌は桜が満開でテレビ各局とも花便りで賑わっています。澄川のエゾヤマザクラも密やかに咲いてしました。天然の落葉広葉樹

林の中でエゾヤマザクラは優占種ではありません。シラカバやミズナラとの競争を強いられているので、樹高のわりに樹冠が小さいので、花芽の数も少なく目立ちません。



復路寄り道をして森林総研北海道支所のエゾヤマザクラを見にゆきました。庁舎へのアプローチ道の両側並木が満開でした。この時期訪問者が多いので、所員が誘導して駐車場を含め車の動線をコントロールしていました。ここのエゾヤマザクラは豊平公園にあった旧研究所の1本の親木の種を育てたものだそうです。その花色は濃紅色と記されています。それがどうしてこんなにも色違いになるのかについては実生種から育てたために交雑されたことによると説明書に記されていました。種蒔きから5年間育苗し、苗高2㍎を1974年に植えたとありますので、1969年に芽生えて38年にしてこの姿なのであります。2004年に中国撫順市でわれわれが蒔いた種はここで採集しました。以後毎年採集し送りつづけています。初年度の孫桜は芽生えて育苗畑で3年目を迎えています。2050年頃にはこの大きさになるわけです。それを見届けられる現会員は若年の2~3人に可能性を残すのみですが、孫桜達が撫順市のあちらこちらで咲く景色が想像できるではありませんか。孫達はさらに花色のバリエーションを広げ人々を楽しませてくれることでしょう。